

## <キリストの沈黙> マルコの福音書 15章 1-15節

### 使徒信条【ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け】

この言葉が私たちの信仰と関わりがあるのは、十字架による裁きは神様がお決めになったことだからです。神は御子イエスの裁きを、ポンテオ・ピラトという実際に生きていた人の時に行われた歴史上の事実として、この時起こることをお許しになった。この言葉はそのことを私は信じるといふ信仰の言葉です。



### 神の沈黙という問題

このローマの総督ピラトにはどうしても理解できないことがあった。それは、裁判の席で人々のどんな好き勝手な訴えにもイエス様が「何もお答えにならなかった」こと。神は不正を黙って見てはおられず不正を裁く。そして語るべきところでハッキリとお語りになる。それこそ神様が神様らしく振舞ってくださるといふことだろう。けれども、ここには黙っておられる神のひとり子がおられるのである。

#### ■作家：遠藤周作著「沈黙」ロドリゴ司祭のことば。

「主よ、あなたは今こそ沈黙を破るべきだ。もう黙っていてはいけぬ。あなたが正しくあり、善きものであり、愛の存在であることを証明し、あなたが厳としていることを、この地上と人間たちに明示するためにも何かを言わねばいけない。」

やはり神様を信頼しようとする心がなければ、神様を信じて従って生きようとする信仰がなければ、神様が沈黙していようと雄弁であろうと結果はどちらも同じだろう。神の沈黙という言葉のうらに私たち人間の根本的な身勝手さが見え隠れしている。

イエス様が沈黙を守られる姿に、神様の意志の堅さが映し出されている。その動かない意志は受難に向かっている動かない意志。誰がなんと言おうと十字架の苦しみに向かう姿勢を変えない、救い主の動かない意志がここにある。

## 苦難のしもべ

**イザヤ書 53:7『彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。』**

私たち人間には、神の沈黙の意味がなかなか分からないものだと思う。神様が黙っておられるように見えると、本当にただ黙っているかのように思い誤解してしまうのだ。

イエス・キリストが、あるいは神が沈黙を守っておられるその周りで、人々の人間のもつ心の弱さや醜さというものがむき出しになった。その結果人々は神のひとり子であるイエス・キリストを『十字架につけろ』と叫び、裁いた。このキリストの苦難の原因は、人間の持つ心の「ねたみ」であった。しかし主イエスは私たちの病をその身にぜんぶ負って下さった。

**イザヤ書 53:3-4『彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。』**

私たちの日常の現実がどんなに暗く見えても、イエス様は岩のように堅い意志を持って私たちを背負い、愛を注ぎ続けて下さった。そしてそれは今この時もそうである。

**イザヤ書 53:5『しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。』**